

# 安全対策連絡協議会

～バン格拉デシュにおける邦人殺害事件発生を受けて～

## 議事次第

- 1 総領事あいさつ
- 2 バングラデシュ邦人殺害事案の概要
- 3 最近のテロ情勢
- 4 海外安全情報の収集要領
- 5 緊急事態における安否確認
- 6 質疑応答
- 7 閉会のことば

平成27年10月27日  
在サンフランシスコ日本国総領事館

# バングラデシュ邦人殺害事件 の概要

# 1 事件概要

◆2015年10月3日午前10時頃(現地時間), バングラデシュ北西部のロングプール(Rangpur:首都ダッカから北西に約300kmに位置する都市)において, リキシャに乗車していた60代の在留邦人男性がオートバイに乗った者等に拳銃で撃たれ, 殺害される事件が発生

◆本件に関し、「ISIL(イラク・レバントのイスラム国)バン  
グラデシュ」を名乗る組織が犯行声明を発出

**日本人異教徒、バングラデシュでカリフ制の兵士の手による粛清**

**バングラデシュ 1436年ズー・アル・ヒッジャ月19日**

バングラデシュのカリフ制の兵士の祝福された作戦において、  
治安小隊がイスラム国に対する十字軍同盟諸国国民の一人で  
ある日本人異教徒を、綿密な追跡の後攻撃し、「ラングプール」  
市にて火器で粛清した。アッラーに賞賛あれ。

十字軍同盟諸国の国民に対する一連の治安作戦はなお継続し、  
ムスリムの領土において彼らには安全も生活もないであろう。

◆外務省では、バングラデシュの危険情報を引き上げ、  
全土を「レベル2」とするとともに、海外安全情報(広域情  
報)を発出し、注意喚起

# バングラデシュ人民共和国 (People's Republic of Bangladesh)

面積：14万7,000平方km（日本の約40%）

人口：1億5,940万人（2015年10月，バングラデシュ統計局）

首都：ダッカ

民族：ベンガル人，チャクマ族等（ミャンマー国境のチッタゴン丘陵地帯）

言語：ベンガル語（国語），成人（15歳以上）識字率：59.1%（B統計局）

宗教：**イスラム教89.7%**，ヒンズー教9.2%，仏教0.7%，キリスト教0.3%

略史：1947年8月14日 東パキスタンとして独立

1971年12月16日 バングラデシュとして独立

政体：共和制

元首：Md. アブドウル・ハミド大統領

議会：一院制（総議席350）

政府：シェイク・ハシナ首相

在留邦人：**986名**（2014年10月1日現在）



## 2 政治情勢

- ◆1971年12月16日、内戦を経て、パキスタンから**独立**
- ◆1990年12月、**民主化運動**により、エルシヤド政権(1982～軍事政権。元陸軍中將)の退陣後、BNP(バングラデシュ民族主義党)とAL(アワミ連盟)の**二大政党**が交互に政権を担う
- ◆2014年1月5日に実施された**総選挙**において、BNPが率いる野党18政党が参加を**ボイコット**したため、与党ALが圧勝、ハシナ新政権が発足
- ◆同選挙を巡り、野党を中心とした政党・団体等による**ハルタル**(抗議ゼネラル・ストライキ)や**抗議集会**が、首都ダッカをはじめ各地で**発生**
- ◆また、ALが主導する「**独立戦争戦犯裁判**」を巡り、イスラム協会(JI)が抗議デモ等を実施し、治安当局と衝突する等、緊張状態が**継続**

# 3 治安情勢

◆ 過激な抗議活動の多発

◆ イスラム過激派の存在

ISILバングラデシュ

JMB (ジャマートウル・ムジャヒディン・バングラデシュ),

HUJI-B (ハルカトウル・ジハーディ・イスラミ・バングラデシュ), など

◆ 身代金目的等の誘拐事件の多発

## ◆ 外国人に対する脅威の高まり

### ○ 2015年9月28日 **イタリア人被害の銃撃事件の発生**

夕刻、首都ダッカ市内の外交団地区において、ジョギング中のイタリア人NGO職員が、バイクに乗った者等に拳銃で撃たれ、殺害された事件

### ○ 同日

「ISILバングラデシュ」を称する組織が**犯行声明**を発出

### ○ 同日

**英国外務省**が、9月下旬に武装勢力がバングラデシュにおける欧米権益を狙う計画を立てている可能性があるとの**信頼できる情報**があるとして、自国民に注意喚起を発出

**米国、カナダ、オーストラリア**も同様の注意喚起を発出（日本も発出）

### ○ 2015年10月3日 **本件発生**

# 最近のテロ情勢

# 1 テロ関連事件の発生状況

## 【2015年のテロ関連事案】 ～ 海外安全ホームページ参照

- A** 7/5 **アフガニスタン**：カブール市内における爆弾テロ事件～2名死亡，11名負傷
- A** 7/7 **フランス**：パリの左派系雑誌社に対するテロ事件～12名死亡，6名負傷
- 8/8 **フランス**：パリ南部近郊における発砲事件～1名死亡，1名負傷
- 9/9 **フランス**：パリ北東部の広告制作会社における人質立てこもり事件
- 9/9 **フランス**：パリ東部20区の食料品店における人質立てこもり事件  
～4名死亡，数名負傷
- I** 10/20 **シリア**：I S I Lによる邦人2名殺害予告映像の配信
- 11/23 **フィリピン**：ミンダナオ地域における爆発事件～2名死亡，54名負傷
- I** 11/26 **イラク**：バグダッド国際空港における航空機襲撃事件～数名負傷
- I** 11/27 **リビア**：トリポリ中心部のホテルにおける襲撃・爆発事件～13名以上死亡
- I** 12/1 **シリア**：I S I Lによる邦人殺害映像の配信
- I** 1/3 **イスラエル**：ガザ地区における拉致・暴行事件～パレスチナ人男性1名被害
- 3/3 **I S I L**によるフランスのイスラム教徒へテロ扇動の呼び掛け
- I** 6/6 **ニジェール**：ボコ・ハラムによるボッソ村襲撃事件～4名死亡

# 【2015年のテロ関連事案】

- 2 / 14 **デンマーク**：コペンハーゲンにおけるテロ事件～1名死亡， 3名負傷
- ア** 17 **パキスタン**：ラホール市内の警察関連施設における爆発事件～8名死亡， 18名負傷
- 21 **ソマリア**：アル・シャバーブによるテロ継続を呼び掛ける声明
- 23 **ナイジェリア**：コギ州における外国人襲撃・誘拐事件～アメリカ人女性1名被害
- 2 / 24 **イエメン**：サヌア市における外国人誘拐事件～フランス人女性1名
- イ** 3 / 7 **マリ**：首都バマコのバーレストラン襲撃事件～5名死亡， 多数負傷
- ア** 15 **パキスタン**：ラホール市内のキリスト教関連施設における自爆テロ事件  
～14名死亡， 55名負傷
- イ** 18 **チュニジア**：チュニス郊外の国立博物館における銃撃テロ事件  
～21名死亡（うち日本人3名）， 43名死亡（うち日本人3名）
- 31 **トルコ**：イスタンブールにおける裁判所襲撃事件～ 1名死亡
- 4 / 1 **トルコ**：イスタンブールにおける警察本部襲撃事件
- イ** 2 **ケニア**：北東地域ガリッサ郡における大学等襲撃事件～148名死亡， 104名負
- イ** 4 **ブルキナファソ**：北部における外国人襲撃・誘拐事件～ルーマニア人男性1名被害
- 5 **エジプト**：カイロ中心部における爆弾テロ事件～1名死亡， 2名負傷
- 7 **チュニジア**：カスリン県におけるパトロール隊襲撃事件～4名死亡， 9名負傷
- 10 **タイ**：南部サムイ島の商業施設における爆発事件～7名負傷

# 【2015年のテロ関連事案】

- I 17 **イラク**：北部エルビル市内の米国総領事館における爆弾テロ事件  
～5名死亡，8名負傷
- T 22 **アフガニスタン**：タリバーンによる春季攻勢の声明
- T5 / 13 **アフガニスタン**：カブール市内のゲストハウスにおける立てこもり事件  
～5名死亡，6名負傷
- I 13 **パキスタン**：カラチ市におけるバス襲撃テロ事件～43名死亡
- 14 **マレーシア**：サバ州東側サンダカンにおける誘拐事件  
～中国系女性1名，男性1名被害
- I 22 **サウジアラビア**：東部州のシーア派モスクにおける自爆テロ事件  
～21名死亡，101名負傷
- 28 **イラク**：バグダッド中心部の高級ホテル周辺における連続爆弾テロ事件  
～5名死亡，13名負傷
- 6 / 10 **エジプト**：南部ルクソールの観光地における襲撃事件～2名負傷
- 15 **チャド**：首都イジャメナにおける爆弾テロ事件～23名死亡，101名負傷
- I 17 **イエメン**：サヌア市内における連続爆弾テロ事件～23名死亡，60名負傷
- I 23 **ISIL**によるラマダン期間中における攻撃強化の声明
- I 26 **フランス**：東部におけるガス工場に対するテロ事件～1名死亡，複数名負傷
- 26 **チュニジア**：沿岸部スースのリゾートホテル襲撃事件～27名死亡

# 【2015年のテロ関連事案】

- I 6 / 26 **クウェート**：シーア派モスクにおける自爆テロ事件～25名死亡，202名負傷
- 反 29 **エジプト**：カイロ市郊外における検事総長殺害テロ事件～1名死亡，2名負傷
- 7 / 2 **コロンビア**：ボゴタ市内における爆弾事件～7名負傷
- 5 **ナイジェリア**：中部のモスク党における爆弾テロ事件～44名死亡，47名負傷
- 6 **ナイジェリア**：北部カドゥナ州の政府庁舎における自爆テロ事件  
～25名死亡，50名負傷
- 11 **エジプト**：カイロのイタリア領事館付近における爆発事件～1名死亡，8名負傷
- I 17 **イラク**：ディヤーラ県における爆弾テロ事件～死者100名超，多数負傷
- 20 **トルコ**：南東部シリア国境付近における爆発事件～31名死亡，100名以上負傷
- I 8 / 5 **エジプト**：イスラム過激派組織による外国人誘拐事件～クロアチア人男性1名被害
- イ 7 **マリ**：中部モプチ州のホテルにおける立てこもり事件～9名死亡
- 反 10 **トルコ**：在イスタンブール米国総領事館への銃撃事件～負傷者0
- T 10 **アフガニスタン**：カブール国際空港における自爆テロ事件～6名死亡，25名負傷
- 17 **タイ**：バンコクにおける爆発事件～20名死亡，125名負傷
- 17 **アフガニスタン**：カブール市内における外国人誘拐事件～ドイツ人女性1名被害
- 21 **フランス**：国際特急列車タリス内における発砲事件～2名負傷
- 28 **バーレーン**：北部における爆弾テロ事件～1名死亡，6名負傷

# 【2015年のテロ関連事案】

- I* 9 / 28 **バングラデシュ**：ダッカ市内における外国人銃撃事件～ 1名死亡
- 30 **中国**：広西チワン族自治区における連続爆発事件～ 7名死亡，数十名負傷
- I* 2 **ナイジェリア**：首都アブジャ郊外における爆発事件～ 20名死亡，40名負傷
- I* 3 **バングラデシュ**：邦人殺害事件～ 1名死亡
- I* 5 **イラク**：バスラ県庁における爆弾テロ事件～ 10名死亡，25名負傷
- 9 **ブルキナファソ**：憲兵隊事務所襲撃事案～ 3名死亡
- 10 / 10 **トルコ**：アンカラ中心部における爆発事件～ 86名死亡，186名負傷
- 10 / 23 **エジプト**：カイロ近郊ギザのピラミッド周辺における爆発事件～ 4名負傷
- I* 10 / 26 **バングラデシュ**：ダッカ市内イスラム教シーア派宗教施設付近における爆発事件  
～ 1名死亡，100名以上負傷

- 〈凡例〉 *I* ～ I S I L 関連  
*T* ～ タリバーン  
*A* ～ アル・カーイダ関連，  
*イ* ～ その他イスラム過激派組織  
*反* ～ その他反政府組織，

# 【2000年以降の主な邦人被害テロ事件】 ～公安調査庁HP参照

## ◆ 01' 2 / 22

武装集団が、コロンビア・ボゴタで自動車部品会社現地法人の邦人副社長を誘拐。その後、同人は「コロンビア革命軍（FARC）」に引き渡され、2003年11月24日に**遺体**で発見

## ◆ // 4 / 22

チェチェン武装勢力が、トルコ・イスタンブールのホテルを襲撃し、**邦人4人**を含む**約120人**を**人質**に立て籠もったが、4月23日に全員を解放

## ◆ // 8 / 31

武装集団が、コロンビア・クンディナマルカ州で邦人農場経営者を誘拐。その後、同人は、「コロンビア革命軍（FARC）」に引き渡され、10月18日に**解放**

## ◆ // 9 / 11 米国同時多発テロ事件

「アルカイダ」が、米国・ニューヨークの世界貿易センタービル2棟にハイジャックした米国旅客機2機を突入させたほか、1機を首都ワシントン郊外の国防総省に突入させ、更に1機はペンシルベニア州ピッツバーグ郊外に墜落し、**邦人24人**を含む**約3,000人**が**死亡**

## ◆ 02' 3 / 17

「ラシュカレ・ジャンヴィ（LJ）」が、パキスタン・イスラマバードのプロテスタント系キリスト教会で爆弾を爆発させ、**5人が死亡**、**邦人1人**を含む**40人以上**が**負傷**

## ◆ // 6 / 14

「アルカヌーン」を名のる組織が、パキスタン・カラチの米国総領事館前で自動車爆弾を爆発させ、**12人が死亡**、**邦人1人**を含む**40人**が**負傷**

# 【2000年以降の主な邦人被害テロ事件】

## ◆ 02' 7/31

「ハマス」の軍事部門「エゼディン・アル・カッサム旅団」が、イスラエル・エルサレムのヘブライ大学構内で爆弾を爆発させ、**7人が死亡**、**邦人2人を含む約80人が負傷**

## ◆ // 10/12 第1次バリ事件

「ジェマー・イスラミア」(JI)が、インドネシア・バリ島のディスコなど2か所で連続して爆弾を爆発させ、**邦人2人を含む202人が死亡**、**邦人13人を含む約300人が負傷**

## ◆ 03' 5/12

「アラビア半島のアルカイダ」の自爆犯が、サウジアラビア・リヤド東部の外国人居住区3か所で自動車爆弾を爆発させ、**20人以上が死亡**、**邦人3人を含む約200人が負傷**

## ◆ // 8/19

「アル・タウヒード・ワル・ジハード」が、イラク・バグダッドの国連本部で爆弾テロを実行し、国連事務総長特別代表を含む**22人が死亡**、**邦人1人を含む100人以上が負傷**

## ◆ // 11/29

武装集団が、イラク・ティクリート付近で日本人外交官2人が乗った車を銃撃し、同2人とイラク人運転手1人の**計3人が死亡**。イラク当局は、旧フセイン政権の情報機関ムハバラトによる犯行の可能性を指摘

## ◆ 04' 4/8

「サラヤ・ムジャヒディン」を名のる武装集団が、イラク中部・ファルージャ近郊で**邦人3人を誘拐**。同人らは、4月15日に**解放**

# 【2000年以降の主な邦人被害テロ事件】

## ◆ 04' 4 / 14

武装集団が、イラク中部・アブグレイブ近郊で邦人2人を誘拐。同人らは、4月17日に解放

## ◆ " 5 / 27

武装集団が、イラク中部・マハムディア近郊で邦人らを乗せた車両を襲撃し、邦人2人とイラク人通訳1人の計3人が死亡

## ◆ " 9 / 9 在インドネシア・オーストラリア大使館爆弾テロ事件

「ジェマー・イスラミア」(JI)の自爆犯が、インドネシア・ジャカルタのオーストラリア大使館前で自動車爆弾を爆発させ、10人が死亡、邦人1人を含む180人以上が負傷

## ◆ " 10 / 26

「イラクのアルカイダ聖戦機構」が、イラクで邦人1人を誘拐。同人は、10月30日に遺体で発見

## ◆ 05' 5 / 8

イラク西部・ヒート近郊で、邦人1人らが乗車した警備会社の車列が襲撃され、同人は行方不明。スンニ派系の武装集団を名のる者が、5月9日、襲撃時に邦人を拘束したとする声明を発出したほか、5月28日、同人が襲撃時に負った傷が原因で死亡したとする声明を発出

## ◆ " 7 / 7 英国ロンドン地下鉄等同時爆破テロ事件

「アルカイダ」から訓練を受けたとみられる者らが、英国・ロンドンの地下鉄及びバスで自爆し、52人が死亡、邦人1人を含む約700人が負傷

# 【2000年以降の主な邦人被害テロ事件】

## ◆ 05' 10／1 第2次バリ事件

「ジェマー・イスラミア (JI)」の自爆犯が、インドネシア・バリ島の飲食店3か所で同時に自爆し、邦人1人を含む20人が死亡、約90人が負傷

## ◆ " 11／15

インド管理下のジャム・カシミール州スリナガルでイスラム過激派と治安部隊の銃撃戦が発生し、3人が死亡、邦人1人を含む8人以上が負傷

## ◆ 07' 6／17

「タリバン」が、アフガニスタン・カブールで警察のバスを狙って自爆し、警察官ら35人が死亡、邦人2人を含む35人が負傷

## ◆ " 9／29

モルディブ・マレの公園で爆弾が爆発し、邦人2人を含む12人が負傷

## ◆ 08' 3／15

パキスタン・イスラマバードのレストランで爆弾が爆発し、1人が死亡、邦人2人を含む12人が負傷

## ◆ " 8／26

武装集団が、アフガニスタン・ナンガルハール州で、NGOスタッフの邦人1人を誘拐。同人は、8月27日に遺体で発見

## ◆ " 9／22

武装集団が、エチオピア・オガデン地域で、邦人1人を含むNGOスタッフ2人を誘拐し、ソマリアに連行。同人らは、2009年1月7日に解放

# 【2000年以降の主な邦人被害テロ事件】

## ◆ 08' 11/14

パキスタン・ペシャワールで、邦人らを乗せた車両が銃撃され、邦人1人を含む2人が負傷

## ◆ // 11/26 ムンバイ同時多発テロ事件

「ラシュカレ・タイバ (LeT)」メンバーとされる武装集団が、インド・ムンバイのタージマハル・ホテルを始め、鉄道駅、ユダヤ教施設、レストラン、病院などを襲撃して、邦人1人を含む166人が死亡、邦人1人を含む235人が負傷

## ◆ 10' 3/23

コロンビア西部・カリ市近郊で邦人農場経営者1人が誘拐。その後、同人は、「コロンビア革命軍」(FARC)に引き渡され、8月15日、コロンビア軍の救出作戦により解放

## ◆ // 4/1頃

アフガニスタン・クンドゥーズ州で邦人1人が誘拐。「タリバン」地方司令官を名のる者が関与を認めたが、同組織報道担当とされる者は、関与を否定。9月4日、在アフガニスタン日本国大使館が同人を保護。同人は、帰国後、「ヒズベ・イスラミ」による犯行との見方を示唆

## ◆ // 10/31

トルコ・イスタンブール中心部で、警察を標的としたとみられる自爆テロが発生し、邦人1人を含む32人が負傷

## ◆ // 12/7

インド・ウッタル・プラデシュ州のバラナシで爆弾が爆発し、1人が死亡、邦人2人を含む少なくとも37人が負傷。「インディアン・ムジャヒディン (IM)」が犯行声明を发出

# 【2000年以降の主な邦人被害テロ事件】

## ◆ 12' 8 / 20

シリア・アレッポ市で、反体制派組織「自由シリア軍（FSA）」に同行し、取材を行っていた邦人1人が銃撃に巻き込まれ死亡

## ◆ 13' 1 / 16 在アルジェリア邦人に対するテロ事件

「血判部隊」とされる武装集団が、アルジェリア・ティガントゥリン地区にある天然ガス関連施設を襲撃し、作業員などを人質にして立て籠もり。アルジェリア軍部隊が1月19日までに制圧したが、邦人10人を含む多数が死亡

## ◆ 15' 1 / 24 シリアにおける邦人殺害テロ事件

「イラク・レバントのイスラム国」（ISIL）が、拘束していた邦人2人のうちの1人を殺害したとみられる映像を発出

## ◆ 15' 2 / 1 シリアにおける邦人殺害テロ事件

「イラク・レバントのイスラム国」（ISIL）が、拘束していた邦人2人のうち残る1人を殺害したとみられる映像を発出

## ◆ " 3 / 18 チュニジアにおける観光客襲撃テロ事件

チュニジア首都チュニスで、武装集団が博物館を襲撃し、日本人3人を含む外国人観光客20人及びチュニジア人警察官1人の計21人が死亡。日本人3人を含む44人が負傷。19日、「イラク・レバントのイスラム国（ISIL）」が犯行を辞任する声明を発出。

## ◆ " 10 / 3 バングラデシュ邦人殺害事件

## 2 テロの環境

- ◆ 中東・アフリカ地域だけでなく、  
世界各地でテロが起こりうる環境
- ◆ 今や、日本人もテロの標的となりえる環境

# 3 危険を回避するために

## ◆ 高い警戒心の保持

～ テロの脅威の再認識と独自の安全対策の構築

## ◆ 情報収集の徹底

～ 外務省・海外安全HP、各在外公館HP等の活用



# 海外安全情報の収集要領

# 1 海外安全ホームページ

- ◆ 「渡航情報」から「**海外安全情報**」へ改称
- ◆ 「危険情報」の**カテゴリー**表記を下記のとおり改称

変更前

変更後

十分注意してください。



レベル1:  
十分注意してください。

渡航の是非を検討してください。



レベル2:  
不要不急の渡航は止めてください。

渡航の延期をお勧めします。



レベル3:  
渡航は止めてください。(渡航中止勧告)

退避を勧告します。  
渡航は延期して下さい。



レベル4:  
退避してください。  
渡航は止めてください。(退避勧告)

# 【危険情報カテゴリーの説明】

## 「レベル1：十分注意してください。」

その国・地域への渡航，滞在に当たって危険を避けていただくため特別な注意が必要です。

## 「レベル2：不要不急の渡航は止めてください。」

その国・地域への不要不急の渡航は止めてください。渡航する場合には特別な注意を払うとともに，十分な安全対策をとってください。

## 「レベル3：渡航は止めてください。（渡航中止勧告）」

その国・地域への渡航は，どのような目的であれ止めてください。  
(場合によっては，現地に滞在している日本人の方々に対して退避の可能性や準備を促すメッセージを含むことがあります。)

## 「レベル4：退避してください。渡航は止めてください。（退避勧告）」

その国・地域に滞在している方は滞在地から，安全な国・地域へ退避してください。この状況では，当然のことながら，どのような目的であれ新たな渡航は止めてください。

# 【感染症危険情報の表記】

◆「感染症危険情報」は、危険情報の4段階のカテゴリーを使用しつつ、WHO等国際機関の対応や、発生国・地域の流行状況及び主要国の対応等を総合的に勘案して発出。具体的な発出の目安は以下のとおり。

## 「レベル1：十分注意してください。」

特定の感染症に対し、国際保健規則(IHR)第49条に規定する緊急委員会が開催され、同委員会の結果から、渡航に危険が伴うと認められる場合等。

## 「レベル2：不要不急の渡航は止めてください。」

特定の感染症に対し、IHR第49条に規定する緊急委員会において、同第12条に規定する「**国際的に懸念される公衆の保健上の緊急事態(PHEIC)**」が発出される場合等。

## 「レベル3：渡航は止めてください。(渡航中止勧告)」

特定の感染症に対し、IHR第49条に規定する緊急委員会において、同第12条に規定する「国際的に懸念される公衆の保健上の緊急事態(PHEIC)」が発出され、**WHOが感染拡大防止のために貿易・渡航制限を認める**場合等。

## 「レベル4：退避してください。渡航は止めてください。(退避勧告)」

特定の感染症に対し、IHR第49条に規定する緊急委員会において、同第12条に規定する「国際的に懸念される公衆の保健上の緊急事態(PHEIC)」が発出され、WHOが感染拡大防止のために貿易・渡航制限を認める場合で、**現地の医療体制の脆弱性が明白**である場合等。

## 【感染症特有の注意事項例】

◆わかりやすい情報とするため、4段階のカテゴリーごとの表現に収まらない感染症特有の注意事項を状況に応じて追加で付記

以下は代表的な例であり、実際の状況に応じて柔軟に注意事項を付記

**「出国できなくなる恐れがありますので、(早期の)退避を検討してください。」**

商業便が運行停止となるなど、出国できなくなる恐れがある場合等。

**「現地で十分な医療が受けられなくなる恐れがありますので、(早期の)退避を検討してください。」**

現地の医療体制が脆弱で、当該感染症及びその他の疾病について十分な医療が受けられない恐れがある場合等。

**「現地の安全な場所に留まり、感染対策を徹底してください。」**

WHOの感染拡大封じ込め措置によって封鎖された国・地域の邦人に対し、同措置への協力を呼びかける場合等。

## 2 海外安全アプリ

～ スマートフォン向けの安全情報配信サービス

### ◆ 目的

海外で自然災害やテロなどの事件が発生し、日本人が巻き込まれるケースが後を絶たないことから、海外にお住まいの方や海外旅行や海外出張されている方に、海外安全情報をより身近にご利用いただくために開発し、2015年7月1日に公開。

### 【ダウンロード先のURL】

[http://www.anzen.mofa.go.jp/c\\_info/oshirase\\_kaian\\_app.html](http://www.anzen.mofa.go.jp/c_info/oshirase_kaian_app.html)

## 3つの機能

- ① スマートフォンのGPS機能を利用して、現在地及び周辺国・地域の海外安全情報を表示可能

所在地から半径約  
100Km圏内の国・地  
域の危険情報を表示



※ タイ国内で本アプリをインターネット環境に接続したと想定

## 3つの機能

② 任意の国・地域を「My旅行情報」機能から選択することで、その国・地域に対する海外安全情報が発出された場合に**プッシュ通知**で受信可能

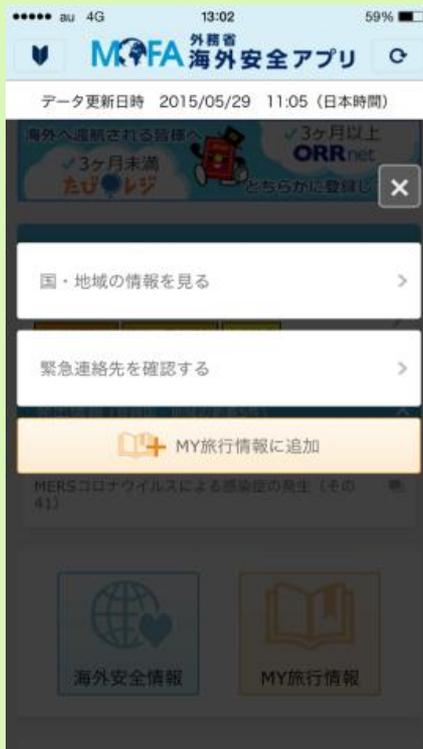
自動的



A screenshot of the Japanese Ministry of Foreign Affairs website. The page is titled "MOFA 外務省海外安全ホームページ" and shows a notification for the Democratic Republic of Congo. The notification text includes: "情報種別：渡航情報(広域情報)", "本情報は2015年06月04日現在有効です。", "海外へ渡航される皆様へ（動物検疫に関する注意）", and "2015/04/22". It also contains several paragraphs of text providing safety advice for travelers, such as "※本情報は、海外に渡航・滞在される方が自分自身の判断で安全を確保するための参考情報です。" and "※海外では「自分の身は自分で守る」との心構えをもって、渡航・滞在の目的に合わせた情報収集や安全対策に努めてください。".

# 3つの機能

## ③ 各国・地域の緊急連絡先を確認することが可能



# 3 その他

## 【外務省領事サービスセンター】

～ 海外における安全問題に関する問い合わせ(窓口・電話)

〒100-8919 東京都千代田区霞が関2-2-1

(代)03-3580-3311(内線2902,2903) / (直)03-5501-8162

※ 9:00～12:30, 13:30～17:00(土・日・祝祭日を除く)

## 【各国在外公館のホームページ等】

◆ 在SF日本国総領事館:<http://www.sf.us.emb-japan.go.jp>  
+ Facebook 「在SF日本国総領事館」

◆ 在米国日本国大使館:<http://www.us.emb-japan.go.jp>

◆ 在LA日本国総領事館:<http://www.la.us.emb-japan.go.jp>

など

## 【公安調査庁ホームページ】

世界のテロ等発生状況:<http://www.moj.go.jp/terrorism.html>

# 緊急事態における安否確認

～安否確認に関するご協力をお願い～

# 1 緊急事態に備えて

◆当館においては、大規模な**災害**、**テロ**事件等の**緊急**事態発生に際して、邦人援護業務を迅速かつ的確に対応できるよう諸準備を継続実施中。

## 【平時における取り組み】

### ○「在留届」「たびレジ」の登録促進

緊急事態発生時の基礎資料であり、様々な機会を通じて登録を促進

### ○「総領事館からのお知らせ」の発出

在留邦人の安全に係わる事案に関して、適宜メール等で注意喚起

### ○「在留邦人安全対策協議会」の開催

適宜、治安情報の相互提供や意見交換を実施

### ○「安全の手引き」の作成

平素からの安全対策及び緊急事態への対応を記した「安全の手引き」について、定期的に見直しを行い、毎年1回改訂版を配布

### ○ 緊急連絡先の整備

情報提供が迅速に行えるよう各組織・団体等の緊急連絡先を整備

## 2 緊急事態発生時における流れ

### (1) 災害・テロ事件等の発生

大地震, 大規模な事故, テロ事件, 等

### (2) 館員の参集と「現地対策本部」の設置

安否照会受付: 415-780-6018~6023

### (3) 現地対策本部の主な任務

- 災害等の規模及び被害程度の概要把握
- 第二次被害, 危険個所, 立入禁止措置等に関する情報収集
- 邦人の安否及び被害状況の把握
- 被害邦人に対する援助, 助言
- 被害者家族対応
- 各種情報の外部への提供, プレス対応

# 3 邦人の安否確認の流れ

## (1) 安否照会受付

照会窓口において、在留邦人等に関する安否照会を受付

- 確認済 → 照会者に安否を通報
- 未確認 → 安否調査へ

## (2) 安否調査

確認できない方に関する調査を実施し、安否を確認

- 企業・団体関係者 → 各企業・団体へ安否確認を依頼
- その他の者 → 総領事館が独自に調査

**※ 緊急事態におけるご協力をお願い申し上げます。**